

【学校教育目標】「感謝の心を持ち、自ら学び、たくましく生きる子供の育成」



学校だより 堂崎つ子

第 7 号

令和 6 年 6 月 17 日

南島原市立堂崎小学校

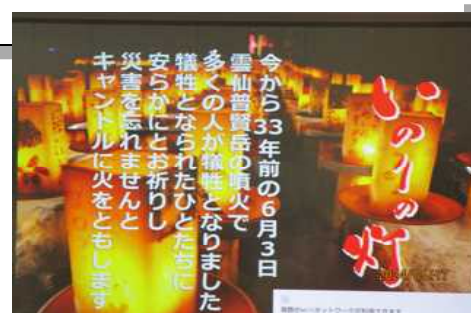
校 長 末吉 優

6・3 第18回 いのりの灯（ともしび）より

多くの犠牲者を出した1991（平成3）年の大火砕流発生時刻の午後4時8分、本市でもサイレンが響き渡り、黙祷を捧げ、犠牲者の方々の冥福を祈りました。

本校5年生は、5月17日（金）、犠牲者の冥福を祈るためのキャンドル作りを行っており、6月3日の雲仙岳災害記念館「がまだすドーム」では、午後7時より点灯式が開催されました。

本校からは、5年生のくんが、島原半島各学校代表者とともに、点灯式に参加しました。会場には、同級生やその家族の皆さんも参加され、災害記念館前に並べられたキャンドルに火を灯し、「災害の時に亡くなられた方々の冥福を祈ります」、「山とみんなが仲良くらせるように……」など、噴火災害が風化しないようにという願いのもと、多くの子供たちやその家族に受け継がれていきました。



5年生：雲仙岳災害記念館・旧大野木場小・砂防みらい館見学による学び 6月7日（金）

□ 島原大変劇場（1792年の噴火で起きた地震で、島原に近い眉山が大崩壊し津波を引き起こした災害について、当時の実際の記録をもとに再現した立体紙芝居を鑑賞）

□ 平成の大噴火シアター ・島原半島の起こり・成り立ちについて

・平成の大噴火（43名の犠牲者の出た1991年6月3日、なぜ人々が災害にあったかを紹介）

危ない所、行ってはいけない所には行かない。言うことを聞かない人がいて、多くの人が亡くなった。

復興へ向けて歩んできた島原の紹介。公園で遊ぶ様子の映像に自分たちが映っていたという事実。



□ 体験等のコーナー（クイズにチャレンジ）

・復興のために導入された無人化施設、重機の遠隔操作 ・水無川導流堤の仕組みを学ぶ

□ ワンダーラボ（・火山の噴火の仕組み ・島原半島……3種類の温泉）

□ <砂防みらい館> 砂防ダムを遠隔操作していた場所

住んでいた方の話（牛・豚・鶏などの家畜を置き去りにするしかなかった）



サツマイモの苗差し 6月11日(火)

玄関前に集合し、2年生の元気のよい「始めの言葉」でスタートしました。はつらつとした元気な声に、たてわり班で協力し、がんばろうという気持ちになったようでした。担当の先生から、イラスト入りで説明を受けた後、いざ芋畑へ。

最近の暑さにより、いつの間にか雑草が目立つようになっていましたので、まずは、除草作業から始めました。雑草の緑色が目立っていた畑は、子供たちの丁寧な作業により、あっという間に茶色一色に。107名の協力はさすがだなと実感しました。また、5・6年生が先頭に立ち、苗がはみ出ないように丁寧に作業を進めました。

すべての作業が終わり、私からは、「作物を育てるには、日頃からの目配りが必要で、水やりや草取りなど時期を逃さないタイミングが大切だ」という内容の話をしました。終わってから、5・6年生はコンテナや使った道具を洗うなどして「あとしまつ」を確実に行いました。まもなく芋苗が根付く、梅雨に入るようです。



<2年生:始めの言葉>



<まずは草取りから>



<たてわり班で芋の苗差し>



保健委員会「歯の集会」より 6月12日(水)

保健委員会の児童による「歯の集会」が行われました。歯の健康に関する紙芝居、クイズ等が行われ、クイズにはしっかり手を挙げ、答えようとする意欲が感じられました。特に、「歯をたくさんもっている生き物は何でしょう」という問題について、「カタツムリ」という解答には、大きな驚きがありました。「歯と口の健康」に関する意識を高めることができたように思います。食後等の歯磨きをていねいに行い、むし歯予防と併せて、歯周病予防に努めてもらいたいですね。



<紙芝居>



<クイズ:手作り感が心温まりました>



<集会の感想を述べる児童>

3年生:研究授業「算数」を行いました。(6月14日 金) 3年生作品掲示

学習のねらいに即し、「自分が作った問題を友達と解き合う、解き方の説明を行う、自分を客観的に捉え問題数を選んで演習問題に取り組む」ことで、主体的に課題に取り組む児童の育成をめざすというねらいで、3年 野中教諭が研究授業を行いました。主体的な学びこそ、今後の学力向上に鍵になっていきます。「子供たちの頑張りを認め、また、授業を見に来ますね。」と言葉をかけると、喜んでいました。

